

平成 25 年度後期「語りはじめたご本人に学ぶ～現場に学ぶ真の医療福祉倫理を  
もとめて～」第 1 回「当事者から学ぶということ」  
(9 月 25 日・青山キャンパス) を聴いて

酒寄孝治  
東京歯科大学社会歯科学研究室

「専門家でも知らないことは知らないと言って下さい」

とても重い言葉でした。専門家である手前、「知らない」とは言えない、言っ  
てはいけないと考えている人が少なからずいます。

そして、自分が知らない間に本に写真が掲載されていたこと。学生のころ使  
っていた教科書にも、目の部分を隠した患者さんの写真が載っていました。そ  
の中には、一見すると何もしていないようなものもありましたが、よく見れば  
瞳のところに瞳と同じ大きさの黒い丸がはってありました。とりあえず、配慮  
しているというアピールをしておけばいいと言う考え方なのかもしれません。  
他の国では、患者さんの承諾をきちんととったうえで、何も隠さずに掲載して  
いると聞いています。

医療の進歩のためには、症例を世の中に広めていくことは必要です。しかし、  
同時に人の尊厳を犯す一面を持っていることを忘れてはいけないと思います。

私事ですが、お話を聞いた翌日大学院で講義を行いました。「臨床倫理とプロ  
フェッショナリズム」をテーマとしました。この中で、講義のでてきた言葉を  
いくつか使わせていただきました。昨年の後期から乃木坂スクールに通ってい  
ますが、ゆきさんやゲストはもちろん、聴講している方からでてくる言葉には  
毎回考えさせられています。ここで得られたものをさらに広めていければと思  
っています。